香美市の面積の約9割を占める森林。眠らせておくのはもったいない！資源を活かし、流通させよう！

木材流通の仕組みに迫る

― 物部森林組合　物部森林ストックヤード ―

スギやヒノキの材木が入札にかけられるストックヤードの現場

切り出された木材が集まる流通の拠点

物部町中谷川にある物部ストックヤード。場内には爽やかな木の匂いが満ち、ゴトトンという力強い音が響く。

物部森林ストックヤードには、10tトラックで10台ほどの材木が毎日運び込まれてくる。集まってくる木々は、一部を除き、ほぼ全てが物部町の森林から切り出されたもの。樹種はまれにアカマツが入荷するものの、そのほとんどがスギ・ヒノキだという。

ストックヤードに運び込まれた材木は選別機と呼ばれるコンベヤーに乗せられ、その種類ごとに仕分けられていく。選別された材木は、フォークリフトが場内の決められた位置に運び出し、出荷の時を待つこととなる。

材木はその用途により求められる太さや品質が違う。合板や木質チップへの加工用として用いられる材木は、あまり品質にこだわらないし、柱材を取るためのものには一定の太さが必要だ。

物部森林ストックヤードでの販売は、入札方式により行われている。買い付けをする製材業者の目利きにより欲しい材木に価格を付け、入札する。一番高い価格を付けた業者が落札するという仕組みだ。年輪が詰み、中心部が赤みがかっている木が良質とされる。

買い付けをする業者は四国各地から訪れ、その内4割は県外の業者だそうだ。香美市の豊かな資源が、県内外の木材需要を支えている。

材木価格は安定
木の需要は伸びてきている

長らく低迷していた材木の価格だが、現在は一定の水準で安定しているという。これには、木の需要が伸び、年間を通じて買い手があることが影響しているそうだ。

入札によらず、年間契約で材木を販売する『協定販売』が定着してきたこと。そして、バイオマス発電所への供給など、木の新しい利用形態が現れてきたことなどは、その大きな原動力と言えるだろう。

材木が高値で取り引きされ、山が人々を潤していた数十年前と比べることはできない。しかし、森林の価値が見直され、積極的な国産材の利用が進んでいる。暗かった林業の現場に、明るい光が差し込んできているようだ。

※香美市には、物部森林ストックヤード（物部森林組合）と繁藤ストックヤード（香美森林組合）があります。広報香美では、両ストックヤードの木材市況を掲載しています（今月は13P）。

①切り出された丸太が広い敷地に集まってくる　②太さ・長さ別に自動で仕分ける選別機　③フォークリフトが丸太の種類ごとに手際よく運び出す　④入札で目玉となる丸太には番号が振られ並べられる　⑤ストックヤードから出荷された丸太は製材工場へ。個性の違う丸太をいかに無駄なく活用するか、製材の技術が光る

丸太は捨てるところなし！

丸太から材木を切り取って余った部分は、薪などとして利用されます。さらに、小さな木片を木質チップとして紙の原料にしたり、オガクズをペレットに加工してストーブなどの燃料にしたり！丸太は、その全てが資源として有効利用されています。

©やなせたかし　森のモリくん

香美市の木材はこうして流通しています

【人工林】
育ったスギやヒノキを、丸太として切り出す。

【ストックヤード】
集められた丸太を、競り売りにより業者が買い付け。

【製材工場】
丸太を柱や板に加工する。

【製品市場】
加工された製材品を売る。

【木材商】
製材品を小売りする。

【工務店など】
製材品を使って家などを建てる。